

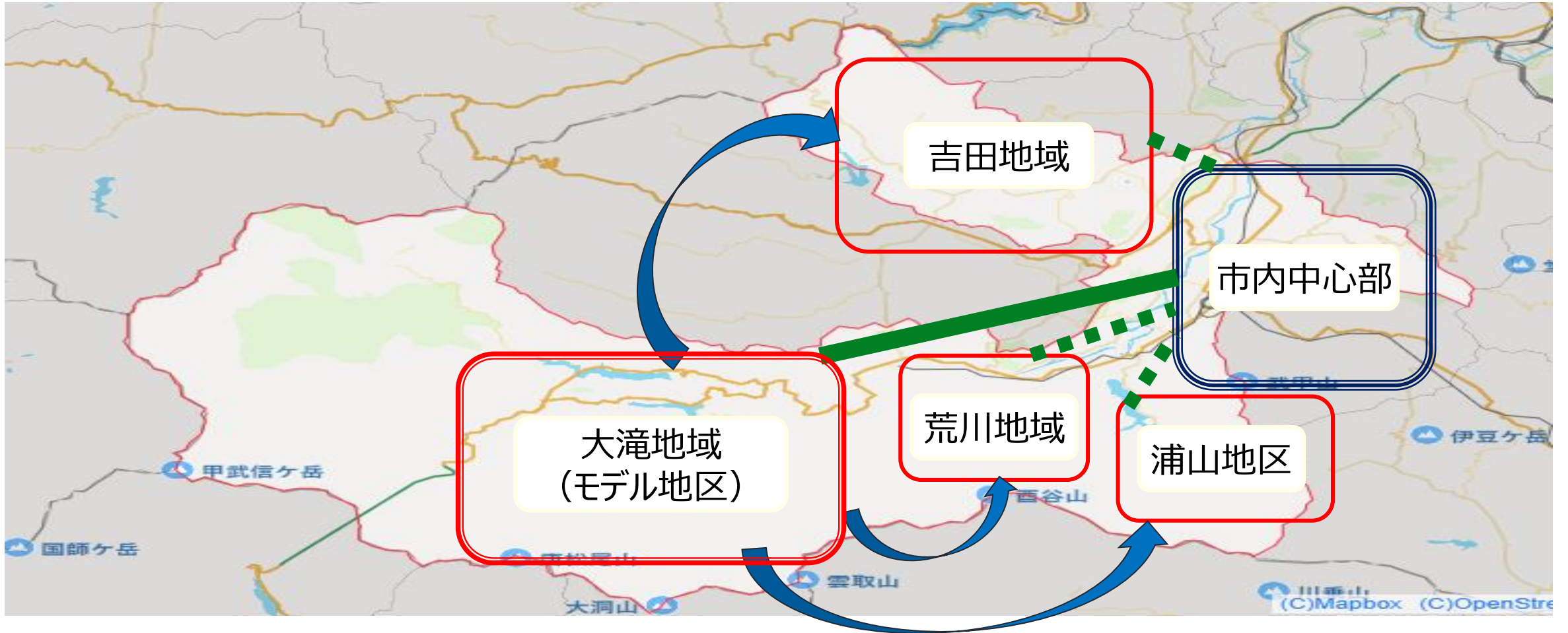
## 秩父市移動支援プロジェクト～未来へ紡ぐ結いまち～

概要	「先端技術を活用し、生活交通・物流等のインフラ維持向上等を図ることで快適な社会を実現する取組(Society5.0事業)」について、秩父市大滝地域を起点として市域全体へ発展させ、中心市街地と各地域を結び、「ヒトとモノ」の移動の困難さに着目した山間地域における物流・公共交通ネットワーク「秩父モデル」として普及させる仕組みの構築を目指す。
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民の高齢化により、災害時や日常生活において生活交通・物流等の生活インフラの維持が難しくなっている。</li> <li>・特に物流分野の採算性や維持確保は課題となっており、山間地域においては、将来的に物流がなくなる可能性も大きくある。</li> <li>・若年層を中心とした都市部への人口流出による人口減少が課題。</li> <li>・医療分野の受診が困難となる状況を防ぐために、遠隔医療等の技術導入の必要性が高まっている。</li> </ul>

	コンセプト(目的)	目標時期	検討したい取組(施策)	民間企業等の協力を得たい分野・内容
コンパクト	地域拠点を中心としたコンパクトなまちづくり	中～長期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の交通や物流の結節点を拠点としたコンパクトな拠点づくりを実現(地域の道の駅などを想定)</li> <li>・地域の総合支所を拠点とした災害時にも強いまちづくり</li> <li>・共同配送の実現により住民の物流網の最適化を目指す</li> <li>・貨客混載の実現により住民の移動手段と物流網を融合したコンパクトな仕組みを目指す</li> <li>・地域間を公共交通機関に加え、EVを活用したカーシェアリングなど新たな選択肢を増やし、人々が移動しやすいコンパクトな街づくりを目指す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先端産業(ドローン・UGV)などに関する産業創出</li> <li>・5G(地域の高速度通信を確保するための支援)</li> <li>・EVカーシェアリング事業</li> </ul>
スマート	ヒトとモノの動きをIoT技術で融合し、最適化と利便性向上を目指す仕組みづくり	短～中期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な位置情報の収集や提供の仕組みを、共通インターフェースでヒトやモノの動きを可視化し、分析情報、提供するシステムを国の交付金事業を活用し「秩父版ダッシュボードシステム」として開発し、活用を目指す</li> <li>・上記のシステムと連携する観光型 MaaS 基盤構築・運用実証を目指す。MaaS 基盤の構築により、自家用車を中心とした観光客の流れを公共交通の利用へ転換させ、観光施設と連携を図り、新型コロナウイルス収束後も見据えた先進的な取り組みとする</li> <li>・医療難民を維持する為に遠隔医療を導入し、地域医療サービスの環境整備を実現する</li> <li>・既存の物流網とドローンや自動走行技術を組み合わせることにより、住民ニーズに合った速達性のモデルづくりを構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光型MaaSIに関する連携</li> <li>・自動走行技術(域内交通)</li> </ul>
レジリエント	平常時でも災害時でも活用できる脱炭素社会に向けた新しい仕組みづくり	中～長期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EVの蓄電池機能を有する利点をいかし、災害時の電源確保も含めたEVカーシェアリングを平常時に導入して、災害時にも活用できる環境を整備</li> <li>・賑わい拠点到EV電力とドローンポートの結節点となる拠点整備を積極的に導入</li> <li>・EVに係る車両や充電設備については民間事業者と連携したシェアリングの仕組みを構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再生可能エネルギー</li> <li>・蓄電池(EV)</li> <li>・シェアリングを促進する為の協力事業者(地元企業や関係企業)</li> </ul>

# 【参考】埼玉県秩父市について

- 大滝地域のモデルを今後秩父市域全体に発展させていくことを想定
- 具体的な拠点や場所については、現時点では確定していない。本取り組みを具体化する段階で調整していく



# 【参考】秩父市大滝地域について

- 既に進めているSociety5.0事業については**大滝地域を中心に実施**。大滝地域のモデルを他地域につなげていきたい
- 「道の駅大滝温泉/大滝総合支所を中心としたエリア（落合・神岡地区）」を拠点としてドローン配送の実現を目指す





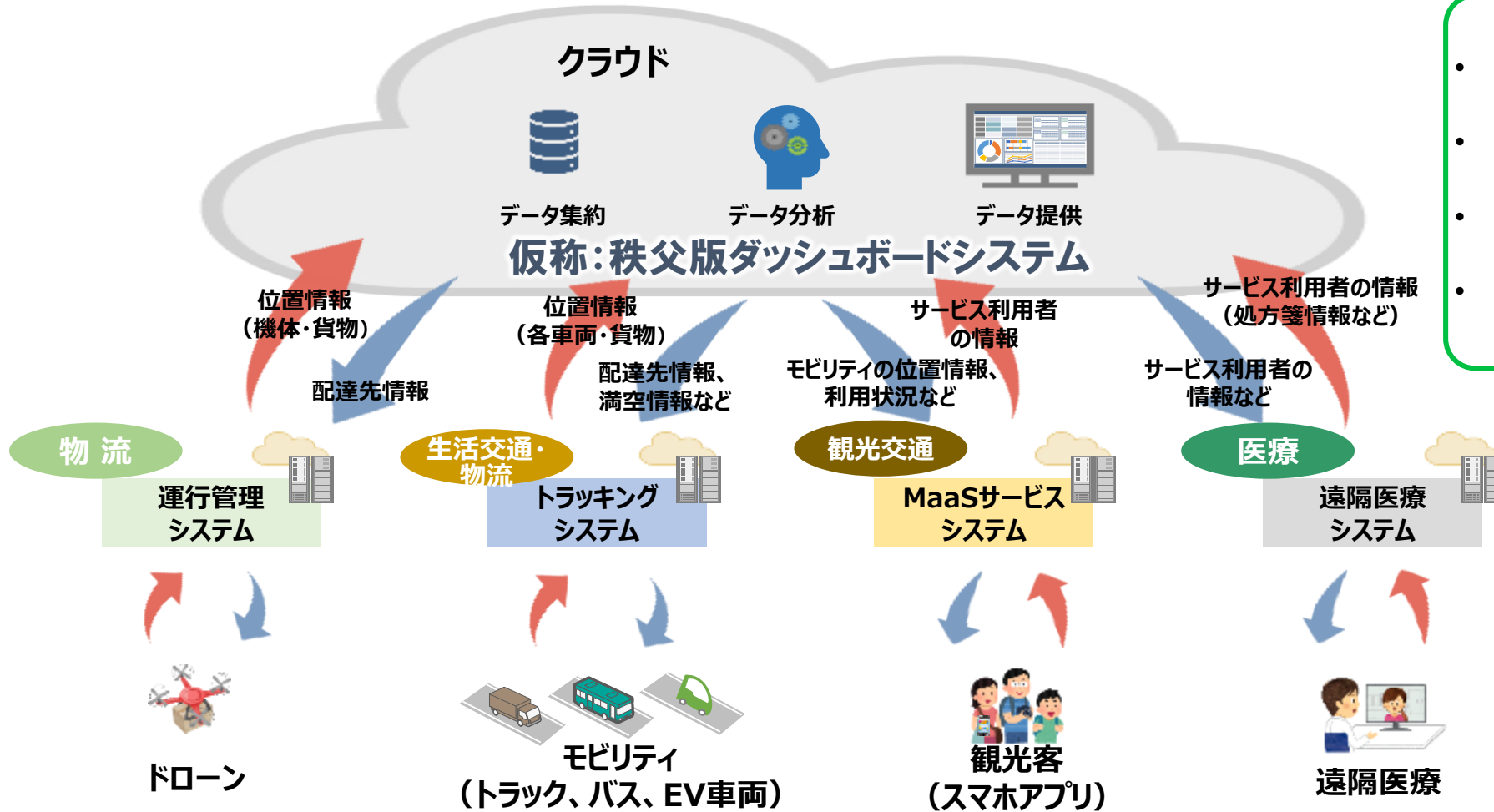
# 【参考】Society5.0事業内容イメージ



秩父市のヒト・モノ・モビリティの移動をIoT技術で融合し、生活交通・物流の最適化を実現するプロジェクト  
遠隔医療、ドローン物流、貨客混載、観光MaaS等の新技術により未来の秩父を創りだす取り組み

# 【参考】秩父版ダッシュボードシステムとは

- ヒト・モノ・モビリティの移動情報を共通インターフェースで集約・分析・情報提供する「サービス統合共通基盤システム」
- 位置情報解析、プライバシーデータ秘匿処理、交通・物流量に応じた収益管理機能の実装を目指し、現在開発中



『ダッシュボードシステムのポイント』

- 多様な位置情報の収集・提供の仕組みを共通インターフェースで定義。
- 共通化 (API) することで既存のアプリケーション/システムと容易に接続が可能
- 多様な情報をサービス間で相互に流通させることで、複数サービスを統合可能
- スーパーシティ構想の日本初の実装モデルとして全国に先駆けて開発・サービス提供

# 【参考】Society5.0事業のスケジュール

- **5年間の事業。今年度は引き続き「計画フェーズ」。**
- 今後の実装に向けたニーズ調査等を実施しながら各分野別の実証実験等を実施する。

2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
<p>▲【計画フェーズ】 生活交通・物流等の機能、サービスを有機的につなげていくための全体設計とニーズ調査</p>	<p>▲【計画フェーズ】 各分野別の実証実験と機能開発による個別最適化の検証と技術検証（年度初めは引き続きニーズ調査も実施）</p>	<p>▲【実証フェーズ】 各分野別の実証実験やプレサービスによる事業性の評価 ※災害時のドローン配送を実施</p>	<p>▲【実証期～実装期】 各分野別のサービス統合による全体最適化 ※システムのプレ運用、プレサービス開始</p>	<p><b>本格実装開始</b></p>

3つの事業に係るニーズ調査、技術課題の整理を実施。  
⇒課題等については会議の中で意見交換を実施。

中間年（2022年度）で、一部の事業で社会実装することが求められている。

最終年には予定する事業が本格的に社会実装することが求められている。